

戦争と
遺伝子組み換え作物

業 脳

エコファーム・アサノ

発想力

Thinking Power

今

年は終戦から65年か。よく言われていることだけど、年々戦争の記憶が世の中

から薄くなってるよな。もちろんあんなバカなことは繰り返しちゃいけないけど、資源とかマーケットを獲得することが戦争の目的だとすれば、今でもそんな「戦争」は世界中で続いているよ。

遺伝子組換え作物があるけど、あれだつて戦争の一種よ。あれはアメリカが穀物で世界制覇をするためのひとつの手段じゃん。言ってみれば食べ物の核兵器だよな。病害虫に強くて収量がとんでもない作物を作られた日には、農業国はみんな困るわけじゃん。安全性がどうこうって話以前に、自国の産業構造は変わっちゃまうし、遺伝子組換え作物を開発したやつが儲かるだけなんだからよ。そんで開発した側は、飢餓で困ってる発展途上国に、だつたらお前らこれを作りなさいって言うでしょ。だけどその代わり、お前らが持つてる地下資源をいつかよこせてやることになるの。そういう狙いが見え見えだよ。そんで遺伝子組換え作物ってのは、経済合理性を追求して家族経営の農家をなくすことにもつながるの。それが嫌だつていうなら、戦う必要があるじゃんよ。

いま日本じゃ、去年のコメが相当

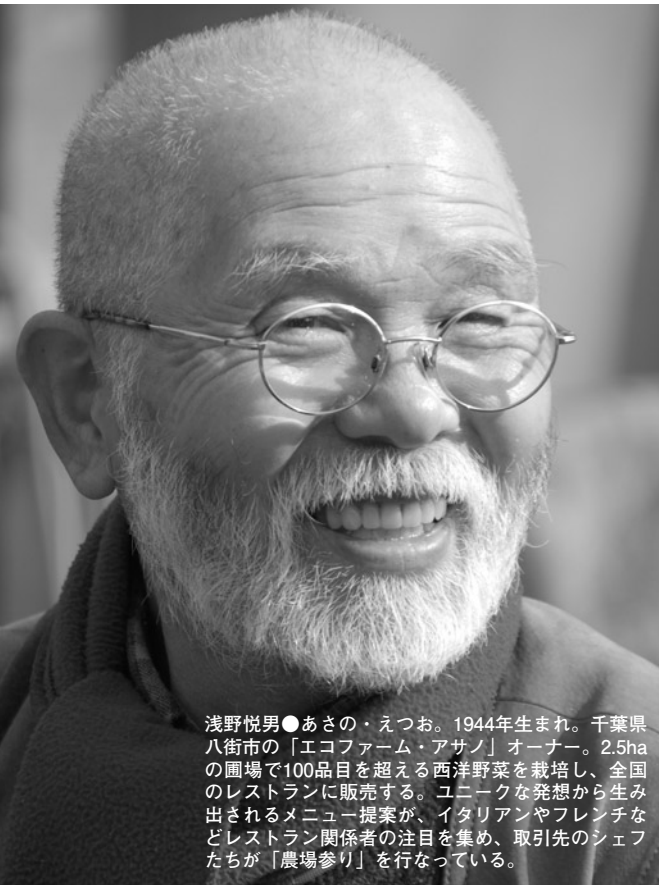
余ってるらしいじゃん。これで今年も平年並みにコメがとれたら、もつと余っちゃうよな。もう日本人はそんなにコメを食わねえつてことなんだから、どんどん世界に持っていかばいいのよ。相変わらず国内だけで需給調整しようとしてっからバカなのよ。

たとえば地下資源の豊かな国に食料を提供するけど、カネはいらないつて言ったらいいじゃん。その代わり、レアメタルの鉱物を日本にくれればいいつてことにすればいい。何も農業だけで利害を完結させるんじゃないくて、資源を必要とする産業と農業が手を結ばばいいんだからよ。別に輸出するだけじゃなくて、現地で生産したつていいじゃん。農業つてのは食べ物を提供する仕事であつて、どこでやるうが、誰が食べようが、国境なんて関係ないんだもん。

最近はおちこちの農場で中国の研修生が働いてるでしょ。日本人だつて同じことをすればいいんだよ。雇用で行くのか、経営者で行くのかの差だけじゃん。あとは日本人を迎え入れる体制がどこの国にあつて、どこの国が一番やりやすい国かってリサーチをしたらいいの。そんで日本から経営者を送り込んで、現地の農業を産業化すればいいじゃん。その結果として途上国が発展するなら、



長かった猛暑を乗り越え、エコファームアサノでは秋ものの野菜の播種や植え付けが進んでいる。写真は夏場の人気メニュー、赤オクラ。写真右端はその花びらで、口に含むとオクラ特有のとろみを感じられ、実以上に「オクラらしさ」が楽しめる。



浅野悦男 ●あさの・えつお。1944年生まれ。千葉県八街市の「エコファーム・アサノ」オーナー。2.5haの圃場で100品目を超える西洋野菜を栽培し、全国のレストランに販売する。ユニークな発想から生み出されるメニュー提案が、イタリアンやフレンチなどレストラン関係者の注目を集め、取引先のシェフたちが「農場参り」を行なっている。

Etsuo Asano's Creative

ひいては日本の国益にも繋がるじゃないよ。

その点、中国は知恵があるよな。最近ではアフリカにどんどん進出して、現地の資源を狙ってるでしょ。日本との交渉だって、どうするかってことを全部シミュレーション済みで来るのよ。だから、なんだって向こうの優位に動くようになってるの。その中で日本が優位になりたきゃ、中国がどうしても必要なものが何か、見極めなきゃいけない。そんな中国が絶対に欲しがるものは簡単には渡さないの。

俺なら自分の野菜は簡単に売らないよ。売らないって言っても、相手が絶対に欲しい、何とかして欲しいって思うようにして、その時に初め

てテーブルにつくわけ。その時に「いくらで買える？」って言えばいいんだから。恋愛でもそうだろう？ 手を出してすぐ寝る娘は、どっちみちすぐに飽きるの。そういう娘はたとえ一緒になったって必ず浮気するよ。商売も同じで、欲しいって言われるままに調子こいて売ったって、そのうちもつと安くて似たようなモノが出たら、すぐそっちに行っちゃおうの。うちで作ってる西洋野菜も、最近も誰かがタネを手に入れられるようになって、あちこちに生産者が増えてきた。そっちの方が安くてうちから離れていく人だっているけど、俺は去るものは追わずだね。だってよその野菜を使わなきゃ、うちの野菜の魅力がわかんないじゃん。うちの魅力がわかったら、また戻ってくる人もいるんだよ。

戦争ってのは、軍人が武器を持って出て行くだけじゃないの。国際的に自分の立場を表明して、議論したり駆け引きするのも戦争なのよ。だから日本人も、自分たちのつくる農産物の付加価値を自ら知って、それを世界中の人が絶対に欲しいって思うような仕組みをつくらなきゃ。それが俺にとっては、戦争に勝つってこと。この戦争は無血だし、犠牲者も出ないじゃん。何もためらうことはないじゃんよ。